

論文

日本の勝ち組の負け

大久保 泰邦¹

投稿受付：2008年6月4日 受理日：2008年6月6日 WEB公開日：2008年7月2日

要旨

イノベーションとは社会に大きなインパクトを与える技術革新と解釈されている。経済至上主義においてイノベーションの果たす役割は、革新的技術を社会に生かすため、絶対化、画一化を行い、競争力強化を図り、競争社会を勝ち抜くことである。しかし米国人のイノベーションは、技術だけに拘らず、芸術のような文化でもかまわないと言う。昨日と違う新しい今日を創造し、これによって人間を活性化させ、幸せにする。心の豊かさまでも包含する点、日本とは考え方が大きく異なる。心の豊かさを作るにはエネルギー・資源はいらない。持続可能であり、無限に成長する。勝ち組も負け組もない。

日本は経済大国を獲得した代わりに文化、自然、美、時間を失ったと言う。石油ピークという未曾有の社会を生き抜くためには、もったいないという節約の精神に戻り、心の豊かさを求める社会に回帰しなければならない。これには価値観の大転換が必要だ。しかし米国の大統領選に見られるような、問題の核心について議論し、国民のコンセンサスを作るメカニズムが日本には無い。また移り変わることに受動的に許容する「無常」の美意識はあるが、自ら積極的に変革するという意識は薄い。経済至上主義で勝ち残った勝ち組がこれからの日本を動かそうとしている。しかしその勝ち組は成功体験に基づく間違っただけの類推をし、失敗を繰り返そうとしている。またしても米国に負けたと感じるのである。

【キーワード】：イノベーション、勝ち組、負け組、経済至上主義、競争社会、石油ピーク、持続可能、もったいない、心の豊かさ、無常、日本、米国

1. 米国のイノベーション

イノベーションとは社会に大きなインパクトを与える技術革新と解釈されている。これからの経済を活性化させるにはイノベーション、技術革新が必要との意見である。

先日、米国のシンクタンクに所属する Heaton, Jr. G.R., Hill, C.T., Windham, P.H. の3氏による米国における競争力強化のためのイノベーション政策 (Heaton, 他, 2008) について聴く機会があった。競争力強化については 2006 年 1 月のブッシュ大統領の一般教書演説で述べられたところである。

講演の中で米国のイノベーションの考え方についての話があった。米国人は新しもの好

きで、イノベーションとはまさに新しい何かを生み出すこと、また古いものを壊して新しいものを創るというダイナミックなことだ、と言う。現在モノが溢れ、欲しいモノなど無い状態で稼ぐには、新しい何かなのだ、と言う。また新しい何かであるから、技術だけではなく、音楽とか絵画とかを楽しむコミュニティー作りなどもイノベーションと位置づけている、と言う。イノベーションの意味は、新しい事・物の導入、革新、刷新、新機軸、新制度、新しい事、であるから、単にそのことを言っただけと他の聴衆は感じたかもしれない。しかし私は衝撃を受けた。

本来経済至上主義は、絶対化、画一化の上になり立つ。マーケティングで売れ筋を見

¹大久保 泰邦 (おおくぼ やすくに) 産業技術総合研究所、日本学術会議連携会員、工学博士

